

21・老福連

第15回職員研究交流集会 in 宮城



「地域を支える福祉と私たちの役割
～大震災から4年を経て～」

開催要綱

日時

2015年 11月7日(土)～9日(月)

会場

TKPガーデンシティ仙台 (アエル仙台 21階、30階)

参加費

3日間 10,000円 2日間 9,000円 1日間 7,000円
1日目夜 交流会 9,000円 (場所:メルパルク仙台)

主催

21世紀・老人福祉の向上をめざす施設連絡会(略称=21・老福連)

後援

宮城県 仙台市 宮城県社会福祉協議会 仙台市社会福祉協議会
宮城県老人福祉施設協議会 仙台市老人福祉施設協議会
NPO法人介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ
公益社団法人認知症の人と家族の会宮城県支部

参加の呼びかけ

全国の老人福祉施設関係者のみなさん

私たち「21世紀・老人福祉の向上をめざす施設連絡会」(略称:21・老福連)は、実践交流と連携を目的とした老人福祉の連絡組織として、2002年6月に発足いたしました。発足にあたって、

介護保険の混乱と矛盾から高齢者を守る立場で、公的福祉の確立を目指すとともに、真の高齢者福祉、介護保険の在り方について実践も含めた意見交換を活発に行う

高齢者主体の援助実践、ケアの質、暮らしの内容を豊かにするため、「職員研究交流集会」を開催する

老人福祉の向上を目指す活動、社会保障を守る活動などを諸団体と共同、連携し、積極的に進める

これらを目的に掲げ、毎年「実践・交流・連携」を重ねてきました。

「介護の社会化」を理念に掲げ、介護保険制度が発足して15年が経過しました。この4月には介護保険制度・介護報酬の改定が行われました。今回の改定は、高齢者にとってはますます使いづらい介護保険制度となってしまうまいし、介護報酬のマイナス改定で、事業運営や人材確保はこれまで以上に困難なものになり、閉鎖・撤退を決めた事業所も出てきました。まさに「介護崩壊」の危機に直面しています。

今年は戦後70年の節目の年。国民誰でもが、平和にかつ幸福に暮らすことを保障している憲法に立ち返り、それぞれの地域の高齢者の願いを確認し合い、「地域を支える福祉と私たちの役割」を、東日本大震災の被災地である宮城県仙台市で、全国の皆さんと共に考え合いたいと思います。たくさんの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

日 時

2015年 11月 7日(土) 13:30~17:30 交流会 19:00~
8日(日) 9:30~16:00
9日(月) 9:30~12:10

会 場

11月7日(土) TKPガーデンシティ仙台(アエル21階)
8日(日) " (アエル21階、30階)
9日(月) " (アエル30階)

参加費

3日間 10,000円 2日間 9,000円 1日間 7,000円
1日目夜 交流会 9,000円

主 催

21世紀・老人福祉の向上をめざす施設連絡会(略称21・老福連)
Tel:06-6770-1600 fax:06-6770-1611
E-mail:roufuku@siren.ocn.ne.jp HP:http://www.roufukuren.jp/
➤ お問い合わせ先 現地実行委員会事務局
高齢者福祉施設「宮城野の里」(担当:土谷)
Tel:022-388-8777 Fax:022-388-8778
E-mail:c_tsuchiya@zmkk.org

申込方法

別紙、名鉄観光からのご案内文書をご確認の上、「参加申込用紙」に必要事項をご記入いただき、FAXにて名鉄観光にお申込ください。

参加申込締切 9月30日(水)

申込受付後、10月上旬より名鉄観光から、参加確認書(参加券・宿泊利用券など)と請求書・振込依頼書をお送りいたします。

テーマ

地域を支える福祉と私たちの役割 ～大震災から4年を経て

目的

東日本大震災から4年が経過しました。原発によって、いまだ故郷に戻れない人たちを含め、被災された人たちが幸福に生きる道筋をつけることが、真の復興であると考えます。福祉は、「生命の尊厳」「人間の尊厳」を理念とします。今年は戦後70年の節目の年にあたります。戦争への反省を込めて作られた憲法の下、平和な社会と豊かな福祉を目指して私たち福祉従事者は日々の援助実践を行っています。今、生命と暮らしが脅かされるということについて、福祉従事者だからこそ、敏感にとらえることが必要だと考えます。

介護保険制度導入時の理念である「介護の社会化」を根底から覆す制度改定が、今年度から実施されました。要支援に認定された160万人を介護保険から分断し、特養待機者のうち要介護1・2と認定された高齢者18万人を入居対象から外す等々、高齢者やその家族が苦悩する状況が出てきています。それぞれの高齢者の願いを確認し合い、「地域を支える私たちの役割」を、東日本大震災の被災地である仙台で、全国の皆さんと考え合いたいと思います。

プログラム

1日目 11月7日(土) 全体会

12:30～	受付開始
13:15～13:30	歓迎セレモニー
13:30～13:35	開会挨拶・オリエンテーション
13:35～14:00	21・老福連からの基調報告 講師:21・老福連事務局長 正森 克也氏
14:00～15:00	記念講演 「原発と震災 福島、被災地の今」 講師:浜通り医療生活協同組合 理事長 伊東 達也 氏
15:00～15:20	休憩
15:20～17:20	記念講演 「その方の生き方を尊重する介護」 講師:特別養護老人ホーム シルバーピアかりや 早川 昌宏施設長
17:20～17:30	2日目会場説明
17:30～18:00	分科会説明

交流会

19:00～21:00	仙台名物「牛タン」をはじめとしたご当地グルメと、東北の地酒、それから各地持ち寄りの銘酒をお楽しみください。同じ福祉従事者として、この集会での出会いの絆を深めましょう。見て、聞いて、参加して楽しい催しを企画しています。
-------------	--

2日目 11月8日(日) 分科会

09:00～	受付開始
09:30～16:00	分科会・分散会

3日目 11月9日(月) 全体会

9:00～	受付開始
9:30～12:00	シンポジウム 「私達が目指す地域包括ケアに向けて、考えなければならないこと」 パネラー:芝田英昭氏(立教大学教授)・西岡修氏(東京・白十字ホーム)他
12:00～12:10	閉会式・次回開催地挨拶

基調報告

7日(土) 13:35~14:00

21・老福連 事務局長 正森 克也氏

介護保険制度が始まって15年が経過し、高齢者福祉・介護の課題が浮き彫りになっています。老老介護や認認介護、特養を利用できない介護難民、介護に疲労しきって起きる介護殺人と介護自殺、介護離職者も毎年10万人を超えています。2015年度介護保険制度改定は、「地域包括ケアシステム」の名のもとに、自助・互助・共助を強調し、「セーフティネット」の役割を社会福祉法人に押し付け、公的責任は名ばかりになるようとしています。今年4月からの介護報酬が下がったことによって、各施設・事業所が職員の処遇改善に充てるお金は厳しいものになっています。地域の中で暮らしを守る「権利としての社会福祉」を貫く私たちの仕事について、一緒に考えましょう。

記念講演

7日(土) 14:00~15:00

「原発と震災 福島、被災地の今」

講師：伊東達也氏（浜通り医療生活協同組合 理事長）

東日本大震災での原発事故。被災から4年経過した福島の今を、報告します。現在も11万人あまりの方が、帰宅できないでいます。故郷に帰れない方々の思いを受けとめ、国や自治体がすべきことは何なのか、私たちにできる支援について考えたいと思います。原発の再稼働の動きについても、報告いただきます。

記念講演

7日(土) 15:20~17:20

「その方の生き方を尊重する介護」

講師：早川昌宏氏（特別養護老人ホームシルバーピアかりや 施設長）

高齢者の多くは、何らかの疾病を持ち、「病と共に生活する」ことになります。特に急増している認知症高齢者は、現在、462万人、高齢者人口の15%（2012年厚生労働省調査）になっています。認知症になっても、最期まで「その方の生き方」を尊重する介護について学びたいと思います。早川氏は、長らく高齢者福祉・介護の現場で、認知症高齢者の援助実践に関わってこられました。早川氏の実践に即した援助実践から、多くを学びたいと思います。

シンポジウム

9日(月) 9:30~12:00

「私達が目指す『地域包括ケア』に向けて、考えなければならないこと」

パネラー：芝田英昭氏（立教大学）・西岡修氏（東京・白十字ホーム）他

厚生省は、「病院から地域へ」「川上から川下へ」、医療や福祉にお金をかけないでボランティアを活用した「地域包括ケアシステム」の構築を、2025年を目指して行うこととしています。私達は、地域の中での「福祉の砦」としての役割を堅持しながら、さまざまな取り組みも行ってきています。高齢者が住み慣れたまちに最期まで暮らしたいという願いを実現するために、どんなことがのぞまれるのか、一歩進めていくために、考え合いたいと思います。